

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年九月度 入選句（投稿総数千八百七十一句・一般投句数六百八十八句）

特選

書道展 墨の余白の涼 新た

養老郡養老町

田中 秀子

余白による涼さを書き対する感覚が新涼なるが故に一層活かされている句。色紙せよ短冊にせよ上手に余白を作ること、美しい画や書が一段と美しくなると教えられたことを思い出す。

雲の影過ぎて華やぐ花野かな

安八郡神戸町

高橋 泰

秋の雲の流れが速いことは周知の通りである。最近では休耕田にコスモスを咲かせて町の活性化に一役担っている地域もあるが正に美しい限りである。句は碧天に一塊の雲が流れ来て広いコスモス畑の一部分に影を作り過ぎ行く雲の影とコスモスの彩の華やぐ一と時を詠んだ大きな句となった。

初秋やサラダ盛る皿替へてみる

大垣市

早崎 美弥子

不安定な暑い夏も終り秋らしい風がカーテンを揺す季節になった。「初秋や」と上五を強く言い切つたのも作者が待ちこがれた秋を感じたからであろう。サラダを盛る皿を替へてみようとの心動きが「初秋や」に通ずるものがあり家庭的な心情句になつて楽しさが生れる句で佳句。

秀逸

太鼓よく響く夜なり盆踊り

大垣市

棚橋 みさを

風に乗り光にのつて蜻蛉かな

愛知県名古屋市

舘野 茂子

つくつくし大樹の芯を響かせり

滋賀県大津市

増田 天志

美濃の山里を守りて月今宵

不破郡垂井町

大羽 志津子

待つ人のなき故郷や星月夜

大垣市

森川 きよ子

風にのる蜻蛉の行方定まらず

大垣市

山田 千歌子

山越える風の声きく唐辛子

大垣市

佐藤 すみ子

コスモスを出てコスモスへ縄電車

安八郡神戸町

高橋 泰

濃あぢさゐる光の雫落としけり

長野県下伊那郡

長沼 まさし

なつおわりまたきざまれたこのれきし

大阪府守口市

寺西 渡

風に身をよじらせ香る葛の花

大垣市

川瀬 幸子

入選

せせらぎの風を背に受け遠花火
むすびの地夫と飲みほす生ビール
ふと風の優しさに遇ふ残暑かな
枝豆や畑のにほひも口の中
立秋や格子戸つづく川湊
川燈台灯り急かるる日の短か
初秋の風深く吸ふ太極拳
校庭に賑やか戻る九月かな
電柱の影にバス待つ日の盛り
満月や眠らぬロックフェスティバル

大垣市 小林 こま
愛知県岡崎市 戸井 和代
不破郡垂井町 児玉 信子
大垣市 平野 きぬよ
大垣市 日比野 友子
愛知県名古屋市 佐々木 千洋子
大垣市 中山 あや子
大垣市 宮脇 和子
京都市右京区 石田 江州
大垣市 名和 よちゑ

入選

句会の日駅のホームの風さやか
終戦日雨足激き正午かな
水を飲み記憶を戻す玉の汗
虫の音の止みて平らか夜の闇
秋めくや少しおしゃれをして旅に
空き瓶に一輪挿せり草の花
名にし負ふ水都の町の泉かな
暑中見舞二円切手を貼り忘れ
ひとこいしみあげたそらはあまのがわ
百選の湧水豊か竹の春

愛知県瀬戸市 田村 清美
揖斐郡大野町 野村 昭文
大垣市 永井 田鶴子
養老郡養老町 田中 紫香
大垣市 鶴田 信子
大垣市 野村 多佳子
愛知県名古屋市 小松 とみゑ
岐阜市 辻 雅風
愛知県名古屋市 越 将治
大垣市 大西 誠一

選者吟

曼珠沙華燃え継ぐ果や殉難碑